平成28年度 決算審査のあらまし

平成28年度一般会計及び9特別会計決算等のあわせて10認定議案（総額2579億7852万3979円）は、9月26日に設置された決算特別委員会において9月27日、28日、29日、10月2日、3日、4日、6日の計7日間にわたり審査が行われました。

その結果、10月6日の本会議で全決算が可決及び認定されました。

ここでは、決算特別委員会の審査の概要をお知らせします。

平成28年度決算特別委員会委員

委員長	吉田　淳基	副委員長	大矢　徹
委員	味村耕太郎	委員	北橋　節男
〃	西　智	〃	竹村　雅夫
〃	有賀　正義	〃	阿部すみえ
〃	武藤　正人	〃	堺　英明

ブックスタート事業
子育て応援メッセ等で周知
アウトリーチの取り組みを進める

質問 本市で実施している1歳6カ月児健診時に絵本を渡すブックスタート事業について、公民館事業や子育て応援メッセ等の子どもに関連する事業等と連携し、アウトリーチでの取り組みを進めるべきと考えるが見解を聞きたい。

答弁 ブックスタート事業は、子どもと保護者が本とともに楽しいひとときを過ごし、本に親しむきっかけにしてもらう事業として平成18年11月に開始し、参加者にも大変好評で市民の事業に対する認識が広まっていると考えている。

現在、各公民館で行われている乳幼児家庭教育学級において、図書館職員または図書館等で活動しているボランティアに協力いただき、親子で絵本との関わりを楽しんでもらいたいという話をするほか、市民会館や市民センター・公民館で行われている子育て応援メッセにも図書館職員が出向き、図書館やブックスタート事業等のブースを設けて周知を図っている。今後も、機会を捉えてアウトリーチの取り組みを進めたい。

本を楽しむきっかけとなるブックスタート事業

防犯灯のLED化効果の検証は

質問 防犯灯は、刑法犯認知件数という観点で犯罪の防止や抑止、安心・安全につながるだけでなく、LED型防犯灯への補修を進めることで、維持管理費の削減や環境負荷の低減といった効果が大きいと考えるが、効果をどう検証しているのか聞きたい。

答弁 平成28年度に防犯灯をLED型に交換せず蛍光灯のままとした場合、電気料、蛍光灯の交換などの補修費、設置費用の合計で年間1億6740万3960円となるはずであったが、これをLED型に交換したことにより、実際は、電気料、LED型への交換等も含めた補修費、設置費用の合計が7785万835円となった。この費用の差額は8955万3125円となり、年間で9000万円弱の財政効果があったと考えている。

また、環境負荷については、蛍光灯は寿命が短いために短期間で交換が必要だが、LEDにすると交換までの期間が8年から10年となり、さらに、電気使用による二酸化炭素排出量の削減という点からも環境負荷の低減に効果があると考えている。

地産地消の推進
市民の関心を促す

質問 地産地消推進事業費の執行率が58・9％となっているが、この理由と、実施状況を鑑みた事業の成果をどのように考えているのか聞きたい。

答弁 平成28年度は、利用推進店制度の活性化のためにランク制度を導入して事業展開を行う予定であったが、地産地消推進協議会において、ランク分けの認定基準やスケジュール等について設計を練り直した方が良いと意見をいただき、改めて見直しを行ったため、認定審査を行うための費用に執行残が生じた。

一方、その他の事業については着実に実行しており、中でも、毎年実施している畑で収穫した農産物を自ら調理して食べるところまで行う収穫体験講座は大変人気があり、参加者が非常に多く、毎回定員を上回る応募がある。また、平成27年度に湘南藤沢産から藤沢産としてロゴマークを新しく作成しており、28年度は直売所で商品に張ってPRしていただくためのシールを作成した。生産者からもこのシールを張ると売れ行きが良いという意見をいただいている。さらに、藤沢市都市農業振興基本計画策定にかかる協議会を3回開催し、この基本計画も県内で最も早く作成することができた。これらの点で、藤沢産の農水産物に関する市民等の関心を促し、理解促進が図られるなどの成果があったと考えている。

藤沢産ロゴマークのシールを活用して関心を促す

片瀬江ノ島駅周辺
地域の声を聞き整備

質問 片瀬江ノ島駅周辺について、オリンピック後の住民のための整備を実施するに当たり、地域の声をどのように聞いていくのか、今後のスケジュール等について聞きたい。

答弁 片瀬江ノ島駅周辺の整備については、まず、バスやタクシー等の公共交通車両が転回できるよう、また、地域住民の生活の足としての利用や、バリアフリーの観点から高齢者、障がい者の方を乗せた車の利用もできるよう駅前に交通空間を整備する。また、既存の駅前広場については、歩行者中心の広場として整備を進めており、地域活性化や住民の方の憩いのための空間作りとして、地域の祭りやイベント等での利用もできるよう検討していく。

整備工事は、来年度に設計し、再来年度に施工するスケジュールを考えており、今年度は設計のための整備実施案を作りたいと考えている。そのために、地域住民の方、片瀬江ノ島駅周辺の町内会の方や事業者の意見を伺うための説明会等を設けており、その中で、駅前広場の取り扱い、駅への避難施設設置の意見や、生活者の視点を重要視してほしいとの意見をいただいている。また、最新の交通量調査を示してほしい、複数案を示してほしい等の声もいただいているので、そうした調査や複数案を今後示していく機会を設け、意見を伺っていきたい。

配慮事例の収集等を実施
発達障がいの支援
合理的配慮の周知に取り組む

質問 JOBチャレふじさわは、従来は知的障がいの方と精神障がいの方の雇用のモデル提示や合理的配慮の研究が中心であったが、今後は、発達障がいの方に対する合理的配慮について検討していくことが重要であると考えるが、見解を聞きたい。

答弁 JOBチャレふじさわでは、障がい者手帳、療育手帳の交付を受けている方を対象に募集を行っているが、発達障がいは多くの方が手帳取得には至っていないため、現段階で雇用することは難しい。このため、就労支援機関などと連携しながら、発達障がいの方の就労体験、実習として受け入れるなど、配慮事例の収集や本人の就労支援という形で事業展開を検討していきたい。また、今後の採用で手帳を持っている発達障がいの方が働くことになった場合も、配慮事例の収集に努めていきたい。

さらに、平成27年度に企業向け障がい者雇用の手引きの冊子を2千部作成し、庁内や市内企業、シンポジウム等で配布しているが、この冊子にも発達障がいの方への配慮事例を掲載しているので、冊子を活用しながら、どのような合理的配慮が必要か認識していただけるよう、今後周知に取り組みたい。

生活困窮者の支援
地域に入り活動する

質問 生活困窮者の支援については、生活保護に至らない方や困難を抱えている方を支える二重三重のセーフティネットをかけていくことが重要だが、自立支援事業の有効性をどう捉えているのか聞きたい。

答弁 生活保護を受給していない方であっても、さまざまな困難を抱える世帯や支援が必要な世帯があり、そうした世帯に対してしっかり支援していくことが生活困窮者自立支援事業の趣旨である。生活保護を最後のセーフティネットと捉えれば、本事業はその前段階にあるセーフティネットであると認識している。

平成28年度は、事業の一部を市社会福祉協議会に委託し、相談の入口を拡充したほか、相談員3人が困窮ソーシャルワーカーの位置づけで地域の中に入り、地域をベースに活動したことで、早期介入による支援件数の増加につながった。

このように、制度のはざまにいる方やSOSを出すことが難しい方に対しても、しっかり目を向けていくことが重要であり、こちらから働きかけるようなアウトリーチの支援活動を積極的に進め、地域の中に入り個別支援を行う中で、地域の課題を把握したり地域作りにつなげていくことが、生活困窮者の支援に有効であると考えている。

教育委員会委員の任命等に同意

○教育委員会委員の任命について

藤沢市教育委員会委員の1人が、平成29年9月30日をもって任期満了となるため、委員を任命することについて、議会の同意を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は29年10月1日から33年9月30日までの4年間。

・大津邦彦氏（再任、藤沢市在住）

○公平委員会委員の選任について

藤沢市公平委員会委員の1人が平成29年9月30日をもって任期満了となるため、委員を選任することについて、議会の同意を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は29年10月1日から33年9月30日までの4年間。

・成重恒夫氏（再任、平塚市在住）

○固定資産評価審査委員会委員の選任について

藤沢市固定資産評価審査委員会委員の1人が平成29年9月30日をもって任期満了となるため、委員を選任することについて、議会の同意を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は29年10月1日から32年9月30日までの3年間。

・桂田由香氏（再任、藤沢市在住）

○オンブズマンの委嘱について

藤沢市オンブズマンの1人が平成29年9月30日をもって任期満了となるため、オンブズマンを委嘱することについて、議会の同意を求めるもの。

議会はこれに同意した。

任期は29年10月1日から32年9月30日までの3年間。

・松本幸男氏（新任、藤沢市在住）